農本主義と土民思想

石川三四郎

青空文庫

此ごろ農本主義といふものが唱へられる。二十年来、土に還れと説いて来た私にとつては、とても嬉しい傾向に感じられる。たゞ『哲人カアペンタア』を書いて以来、私の考へ且つ実践して来た土民生活の思想と、今日流行の農法主義とは、些か相違するところがあるから、それを極めて簡略に説明して置きたい。

私は先づこの両思想の相違点を大体三点に分けて見る。第一に、農本思想は治者、搾取者の側から愛撫的に見た「農は天下の大本なり」といふ原則から出たものであるが、土民思想は歴史上に現はれた「土民起る」といふ憎悪侮蔑的の言語から採つたものである。第二に、農本思想は農民を機械的に組織して他の工業及び交換の重要事業との有機的自治組織を考へないが、土民生活に於ては一切の産業が土着するが故に農工業や交換業が或は分業的に或は交替的に行はれて鞏固な有機生活が実現される。第三に、農本思想は階級制度下に無闘争の発展を遂げようとする百年前のユトピヤ社会主義者と同一系統に属するものであるが、「土民」思想は其名それ自身が示す如く階級打破の闘争無しには進展し得ない性質を持つてゐる。

◇

以上の三点を更に少しく詳細に説明しよう。第一に言葉は原理を表現するものである。原理

と言つても、形而上的原理とちがつて、規範的実践的原理には知的要素とゝもに情的要素が同様に包含される。従て、その原理を表現する名称には単に理論ばかりでなく気分が現はれてゐるものだ。権藤成卿氏の『自治民範』によると崇神天皇は誓詔を発せられて「民を導くの本は教化にあり、農は天下の大本なり、民の以て生を恃む所なり。多く池溝を開き民業を寛ふせよ。船は天下の利用なり、諸国に令して之を造らしめよ」と勅語せられたといふことだ。農本主義者が現存の階級的闘争を否定し、寧ろ民族的統制のもとに農民の自治的生活を助長しようとするのは、極めて自然のことと言ふべきだ。それは簡単に言へば、農民愛撫主義である。近頃の言葉でいへば温情主義である。農本思想には治者が大御宝を、または民草を、大切にして皇化に浴せしめる、といふ気分が自づからにじみ出てゐる。それが武力的革命にまで急発展すると否とに係はらず、かうした気分は顕著である。

　然るに「土民」思想には些かもそうした気分が現はれてゐない。歴史上に於ける「土民」の名称は叛逆者に与へられたものだ。殊にそれは外来権力者、または不在支配者に対する土着の被治被搾取民衆を指示する名称だ。「土民」とは野蛮、蒙昧、不従順な賤民をさへ意味する。温情主義によつて愛撫されない民衆だ。その上、土着の人間、土の主人公たる民衆だ。懐柔的教化に服さず、征服者に最後迄で反抗する民だ。日本の歴史に「土民起る」といふ文句が屢々見出されるが、その「土民」こそ土民思想の最も重要な気分を言ひ現はしてゐる。

　土民は土の子だ。併しそれは必ずしも農民ではない。鍛冶屋も土民なら、大工も左官も土民

だ。地球を耕し——単に農に非ず——天地の大芸術に参加する労働者はみな土民だ。土民とは土着の民衆といふことだ。鍬を持つ農民でも、政治的野心を持つたり、他人を利用して自己の利慾や虚栄心を満足するものは土民ではない。土民の最大の理想は所謂立身出世的成功ではなくて、自分と同胞との自由である。平等の自由である。

◇

第二に、農本思想は農民を主とするが故に他の民衆を考慮に入れる余地がない。「農本」といふ言葉其ものが、既に他の職業人を第二位に置くことを予想させる。そこで農本主義者は農民の如何なる社会組織を予想するかゞ問題になる。農本主義とは他の職業よりも農を重しとするものであらうが、それが果して可能であるか。崇神帝の「農は天下の大本なり」といふ勅は決して他の職業を蔑視したものではあるまい。なぜなら直ぐ次に「船は天下の利用なり」とあり、交通機関としての船の重大性を同様に認めてゐるからである。然るに今日の農本主義者はたゞ農民のみを重んじ、農民のみによつて社会改造を成就しようとする。それは農民の機械的の組織を予想させるものではないか。

土民思想に於ては、職業によつて軽重を樹てない。たゞ総ての職業が土着することを理想とする。自治は土着によつてのみ行はれる。然るに他の諸々の職業人と有機的に連帯しない農民

のみの土着は不可能だ。その土着生活は必ず他の職業に依頼せねばならないので、再び動揺を起さねばなるまい。総ての職業が土着するには、金融相場師がなくなるを要する。総ての職業が土着すれば、そこに信用が確立し、投機が行はれなくなる。そして其職業が職業別に全国的、全世界的連帯を樹立すると同時に、地方的に他の全職業と連帯する。そこに有機的な地方土着生活と有機的な世界生活とが相関聯して複式網状体を完成する。

◇

第三に農本主義は現在の強権的統制をそつとしておいて農本的自治を行ふことに依て社会改造の目的を達しようとする。それは百年前にユトピヤ社会主義者が考へたと同じ考へ方だ。意識的に或は無意識的に治者、搾取者の地位から農民を教化し向上せしめようとする考へから出発したこの思想には、無産農民自身の身になつた感情が動いてゐない。どつちへ向いても手足を延ばす余地を持たず、資本と強権との鉄条網をめぐらされて、機関銃と爆撃飛行機とに威迫されて、最後の生命線まで逐ひつめられてゐる無産窮民——即ち土民の心情とは縁遠いものだ。

現制度の下で何か現実的にまとまつた仕事を達成しようとするには農本主義もよろしからう。けれども、それは解放の事業ではない。「土民」は先づ鉄条網を断ち切らなければ団結も共働も自由にはできないのだ。先づ鉄条網を寸断することだ。如何にして周囲の鉄条網を切断する

か、それが解放の最初の問題だ。最大緊急な問題だ。

鉄条網に繞らされた土民はいま機関砲も爆撃機も持つてゐない。絶対絶命の土民はたゞ鍛えられた肉弾を持つてゐるのみだ。土民仲間にあつては「爆弾三勇士」なぞは常に到処に見出される。

青空文庫情報

底本：「石川三四郎著作集第三巻」青土社
　　1978（昭和53）年8月10日発行
初出：「ディナミック」
　　1932（昭和7）年9月1日
入力：田中敬三
校正：松永正敏
2006年11月17日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

農本主義と土民思想

石川三四郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/